



▲旧長田小学校を背景に加藤毅さん・美穂さんご夫婦と久保さん。

知りたい!

聞きたい!

愛媛暮らしの魅力と地域のサポート



取材場所
愛媛県内子町
長田地区

移住には移住者、地元、行政との連携や相互協力が大切です。移住者のよりよい愛媛の暮らしを支える情報提供、地元サポート、相互協力などの現状をご紹介します。

地域に溶け込むことが大切です。

上山

受け入れた地域の自治会長の久保さんは加藤さんの移住をどう思われましたか?

久保自治会長

長田地区は内子町の山間部にあり、現在61世帯、人口120人の典型的な過疎地で、高齢者の多い地域ですが若い加藤さんご一家を含め7家族、23人の方が移住して生活しています。民生委員を担当していただいている方もおり、加藤さんをはじめ、とても良い方ばかりで若い方が地域に入ってきていただきありがたいことだと思っています。

ご近所の方からいっぱいお祝いをいただき、ご自分のお孫さんのように喜んでいただきました。子どもが生まれるということは高齢者の多い地域にとって、とても活力と喜びを生むことなんです。

上山

お仕事のほうはどうなっていますか?

加藤

農業の方は家から車で5分のところに、約6反ほどの耕作地を借りています。季節の野菜を作っていますが、現在は自家利用がほとんどで、時々、道の駅「フレッシュパークからり」の直売所で販売をしています。将来はもっと販売を増やしていきたいと思っています。



長田自治会館(旧長田小学校)

経済的に自立し、地域に根付きたいですね。

久保自治会長

内子町の移住者の受け入れ体制はどうですか?

上山

内子町としては、これまで石畳地区、長田地区を中心に移住者を受け入れてきましたが、今後は町内全体に広げていきたいと思っています。また、移住者が増加する中で、受け入れる側の空家情報や就農支援などの情報サポートだけでなく、移住後の地域との交流を、どうスムーズに行うかも重要なテーマだと考えています。そのために移住者の相談相手を自治会長さんなどをお願いしていますが、もっと充実させていく必要があると思っています。

上山

移住されてみて、行政にお願いしたいことはありますか?

加藤

そうですね、移住者同士のネットワークづくりを、もっとサポートしていただきたいですね。先ほどご紹介した月1回開催する「丘の上の日曜日」は、移住してきた人たちが得意分野の手作りの品を持ち寄り、販売できる場所となっています。

上山

内子町では毎年、「移住者交流会」を開催しています。移住者だけでなく、移住者がお住まいの地区の自治会長さんなども参加していただき、交流を深めたり、意見交換をしています。昨年は約50名、今年は約70名が参加と増加しています。

上山

今後の予定や見通しはいかがですか?

加藤

とにかく、経済的にまず自立することです。木工品の製作と農業とを両立させ、どちらも確実に収益が上がるようにしていきたいですね。木地師として収益がもっと上がれば、材料の木材を地元から買うことができるなど、お世話になった地域の皆さんにもお返しができ、地域が潤うようになると思っています。

現在、子育て真っ最中でもありますが、妻とも協力して長田地区に根付いた暮らしを確立したいと思っています。

上山

本日はどうもありがとうございました。



緑のある土地だったので迷わず決めました。

上山

まず、はじめに内子町へ移住するきっかけをお聞かせ下さい。

加藤

私は広島県出身で広島市で、福祉関連の団体で働いていましたが、将来は農業をやりたい、田舎で暮らしたいと思っていました。移住を決意した際、農業だけでなく経済的に安定するためには、農業以外の収入源が必要だと思い、大分県の由布院で3年間、お椀やお盆などの木工品を作る「木地師」として、修行しました。

上山

移住先を内子町長田地区に決められた理由は何ですか?

加藤

長田地区へ移住したのは平成19年11月です。妻の実家が松山市で、以前、妻が農業体験でこの長田地区に来たことがあり、移住先は迷わず、ここに決めました。その時、指導していただいた方も移住者で、先輩移住者として、現在もいろいろと相談にのっていただいています。

上山

現在のお住まいとご家族構成はどうなっていますか?



▲旧長田保育所だった建物に工房を増設。

加藤

現在、廃校になった長田小学校の隣に、住居と工房があります。内子町役場から提供いただいた情報の中から選びました。家族は妻と6歳、1歳の子どもの4人家族です。2番目の子どもは、移住後にここで生まれました。



木地師としては、木のスプーンやお皿、お椀などの生活用品を中心に作っています。移住者仲間で開く「丘の上の日曜日」や松山、関西方面の雑貨店などで販売しています。工房を建て増しする際には、ご近所の人たちに手伝っていただき、地域の方の温かい気持ちを感じました。



見晴らしの良い耕作地。



①ひとつ、ひとつ丁寧に手造りする加藤さん。 ②手造りの工房内部。
③柿、栗、枇杷など木工品の材料を乾燥させる。 ④粗彫りし乾燥させる。
⑤作るのは匙(さじ)やお椀など身近な生活用品。

上山

久保会長には、加藤さんの移住後のサポートも行っていただいているのですが、地元の方との交流はいかがですか?

久保自治会長

まず、長田地区に溶け込んでいただきたいと思い、地元の方の特徴や家族構成などをお話ししました。地域にどんな人が暮らしているのかわかっていただく事は、とても大事なことだと思っています。時には私が橋渡しをすることもあります。また、長田自治会館(旧長田小学校)で行われる長田食の文化祭や、地区の行事にも積極的に参加し、地元の方と交流を深めていただいています。小さな子どもたちが元気よく走り回る姿は、高齢者にとっても元気の素になります。特に加藤さんは消防団にも入っており、地域の方との交流が深まっていると思います。

加藤

自治会長の久保さんには本当に感謝しています。気さくに声をかけていただき、妻ともどもお世話になっています。

ご近所から1度に食べきれないほどいただいたシイタケ▶

